

令和6年度 学生支援事業活動報告書

- 1 活動名 第14回 日本赤十字六看護大学学生交流会
- 2 指導教員：日本赤十字北海道看護大学 教授 根本 昌宏、助手 大坂 真矢
参加学生：2年生 4名、1年生 5名

- 3 要旨

交流会初日、開会式・各大学紹介・お土産交換等で各大学の学生との交流を深め、午後から避難所演習を開始した。日本や北海道の災害の講義を受け、アリーナでの演習では、床に直接寝た場合とブルーシートを敷いた場合を比較し、そこから騒音問題や避難所と疾病の関係を学んだ。段ボールベッドの組立では、簡単に組み立てられそうで実際は難しく、避難所の備蓄品には課題があることを認識した。炊事演習では、少ない物品で極力少ない水での調理は非常に難しく、多くの学生が慣れない操作に苦戦した。演習から避難所生活の難しさや防災・備蓄の大切さを知り、各自組み立てた段ボールベッドで就寝した。

交流会二日目は苦戦しつつも朝食の炊事演習を行い、その後、深川市のまあぶオートキャンプ場でバーベキューを行い、各大学の情報共有と文化交流を行った。

交流会最終日は旭山動物園を見学し、北海道の自然を考える・感じる事ができた。この後、バスで旭川駅に移動し、集合写真を撮影したのち解散し、交流会は終了した。

三日間の交流会を通し、大学・学年関係なく情報や知識を共有し、学びながら楽しく交流を深めることができた。

令和6年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 第14回 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字秋田看護大学 看護学部 准教授 齊藤 貴子
参加学生：看護学部2年生 2名

3 要旨

1) 日時：令和6年9月11日(水)～13日(金)

2) 場所：日本赤十字北海道看護大学、まあぶオートキャンプ場、旭山動物園

3) 目的

- (1) 被災者にとっての避難所の環境を知り、発生しやすい健康障害や生活上の課題、救援者ができることを考える。
- (2) 大学や学年関係なく交流し、情報や知識を共有する。
- (3) 「北海道らしさ」を学んでもらう、楽しんでもらう。

4) 活動内容

- (1) 大学紹介、お土産交換
- (2) グループトーク
- (3) 避難所演習（学内宿泊）
- (4) 夕食・朝食の自炊
- (5) キャンプ場でBBQ（コテージ宿泊）
- (6) 旭山動物園観光

5) まとめ

3日間の交流会を通し、6大学間でたくさんの学びを得ることができた。大学紹介では他県の赤十字大学の学内の様子や強みを知ることができた。特に日本赤十字北海道看護大学内にある災害備蓄倉庫の大きさには驚いた。見上げるほどの大きな空間にたくさんの災害時に使用する物品が置いてあり迫力を感じた。また、学内での避難所演習の際に行った災害用トイレの設置やダンボールベッドの組み立て、夕食作りでは災害時にどのような行動をすればよいかなど多くの知識を得ることができた。グループ編成をして行動することで、より一層他大学との交流が深まったと感じられた。さらに、それぞれのグループで避難所演習を通して感じた良かった点と悪かった点を挙げていった際に、共通して良かったことや改善した方が良かったことなど様々な意見を聞き学びにつなげることができたと考える。実際に避難所生活での暮らしを体験したことで被災者に寄り添った考え方ができたと思う。

令和6年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 第14回 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字看護大学

看護学部教授 川崎 修一

さいたま看護学部学務部長 喜多 里己

参加学生：看護学部 3年生 5名

さいたま看護学部 1年生 3名

3 要旨

- 〔1日目〕最初に各大学の紹介を行った。それぞれの大学の周辺の地域のことや大学の魅力などについて発表し合うことができた。日本赤十字北海道看護大学教授による日本や北海道の災害についての講義を受けた後、災害避難所での暮らしを想定した炊事や就寝場所の設置等を行い、設備が十分あったとしても普段の暮らしを続けることの難しさを学ぶことができた。
- 〔2日目〕前日の災害避難所想定から継続し、炊事演習を行った。前日の振り返りを行うとともに、各大学の学生自治会の情報共有や、北海道から九州と日本全国から集合している中での文化交流を行うことができた。
- 〔3日目〕旭山動物園にて、北海道の自然や北海道固有種の飼育動物を見学し、大学間の交流を深めることができた。
- 〔まとめ〕3日間の交流会を通し、赤十字の学生として災害対策への意識の向上と理解を深め、活発な意見交換によって有意義な学びと交流の機会となった。

令和6年度 学生支援事業活動報告書

- 1 活動名 第14回 日本赤十字六看護大学学生交流会
- 2 指導教員：日本赤十字豊田看護大学 准教授 石黒千映子
参加学生：1年生 1名、2年生 3名、3年生 1名

- 3 要旨

日本赤十字北海道看護大学にて対面開催された交流会へ、本学からは5名の学生が参加した。「防災・減災について学ぶ」をテーマに、避難所生活とキャンプ生活を行い、両者の比較から避難所生活で起こりやすい健康問題や生活上の課題、被災者が抱くニーズについて考え、救援者として何ができるかを検討した。参加者全員で助け合って生活し、実体験を通して多くの気づきや思いを共有できた。

また、旭山動物園観光等を通して自然の雄大さを感じるとともに、各大学の学生達と親睦を深めることができた。

長距離移動に伴う体調不良やトラブル発生等に備え、出発前に緊急時の連絡先や旅行保険の加入状況を確認した。全員、体調不良やトラブルに見舞われることなく全日程に参加し、無事に帰名した。

次年度開催校は、日本赤十字秋田看護大学である。今年度の経験を踏まえ、無理のない旅行計画の立案や旅行保険の加入などを支援し、安全に参加できるよう支援していきたい。

令和6年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 第14回 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字広島看護大学 教授（学生支援委員長）山村 美枝
参加学生：2年生 3名、1年生 1名

3 要旨

日程：令和6年9月11日（水）～13日（金）

場所：日本赤十字北海道看護大学

テーマ：赤十字避難所活動を演習にて実践し、防災・減災について学ぶ。

演習や観光を通して、全国の赤十字大学との交流を深める。

内容：9月11日から9月13日まで日本赤十字北海道看護大学にて開催された六大学学生交流会に参加した。

避難所演習では、体育館を避難所だと仮定して防災・減災について学んだ。
災害用簡易トイレの効果を体験し、最新の災害用トイレも体験した。その際に避難所となった場所で断水した時、災害用トイレについて使用ルールを定めることを学んだ。

令和6年度 学生支援事業活動報告書

- 1 活動名 第14回 日本赤十字六看護大学学生交流会
- 2 指導教員 日本赤十字九州国際看護大学 学務部長 櫻本 秀明
参加学生 2年生 3名

3 要旨

今回の六大学交流会では、北海道看護大学がある北見市での災害発生を仮定し、当該大学が避難所となった想定で避難所演習を実施した。その後、移動して「北海道らしさ」を体験する活動を行った。

避難所演習では、実例を用いたオリエンテーションや、ブルーシート、毛布、ダンボールベッドなどを使用した寝床設備の設営、災害支援物資を使用した調理法での炊き出し演習、熱による密閉システムで排泄物を密封できる電動式の簡易トイレや活性炭を用いたトイレの設置や開設などを体験した。これらの活動を行うにあたり、災害時に使用できる物資の選定を行ったり、設営にかかる時間や必要な労力を体で感じることで、災害時に被災者や支援者が感じる身体的・精神的・経済的負担について考えることができた。北海道らしさを感じる体験では、キャンプや旭川動物園での活動を通して、普段生活している福岡との違いを感じ、特色について考えた。